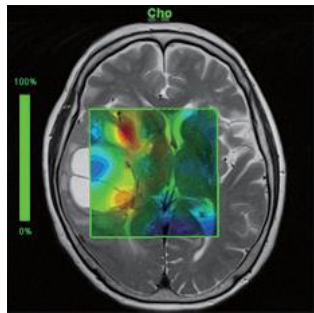
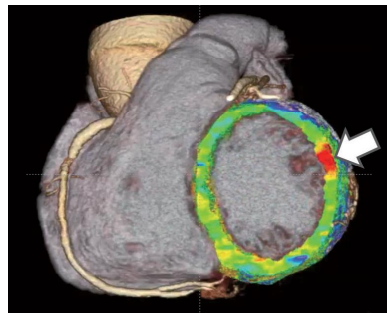


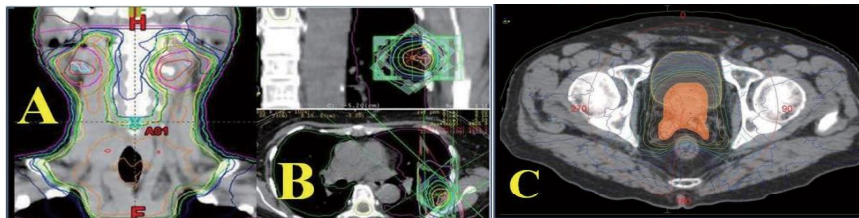
熊本大学病院放射線科専門研修プログラム



脳腫瘍のMRスペクトロスコピー（Cho代謝）



心臓CTによる心筋障害の評価



A 頭頸部癌に対する強度変調放射線治療 B 肺癌に対する定位照射 C 前立腺癌に対する強度変調放射線治療

1 画像診断・治療科、放射線治療科領域専門研修の教育方針

実臨床における画像診断・治療科の役割は、X線撮影、超音波検査、CT、MRI および核医学検査などを利用し、全身の画像診断を行うことです。当科の研修においては、画像診断全般（単純X線、透視、マンモグラフィ、CT、MRI、超音波等）～核医学（SPECT、PET等）の基礎知識を習得し、IVR（血管造影やTAE、PTA、大動脈ステント留置、肝臓癌や肺癌の経皮下治療等）の基本的な手技を学習します。また、消化器内視鏡手技の習得と同時に治療内視鏡や超音波内視鏡についても学ぶことができます。

放射線治療科における研修では、放射線治療の適応、役割を学ぶとともに、がん診療に関する全般的な知識を習得することができます。また、定位放射線治療や強度変調放射線治療（IMRT）等の高精度放射線治療についても理論から実践まで研修できます。

研修終了後は、放射線専門医の資格を得るに十分な知識と技能を習得することが可能です。

2 研修体制

本プログラムは、熊本大学病院 画像診断・治療科、放射線治療科を専門研修基幹施設として、天草地域医療センター、天草中央総合病院、荒尾市立有明医療センター、出水総合医療センター、熊本市市民病院、くまもと森都総合病院、熊本赤十字病院、熊本総合病院、熊本地域医療センター、熊本中央病院、熊本労災病院、くまもと県北病院、公立八女総合病院、国立病院機構熊本医療センター、国立病院機構熊本再春医療センター、済生会熊本病院、人吉医療セン

ター、水俣市立総合医療センター、都城市郡医師会病院、産業医科大学病院を専門研修関連施設として加えた専門研修施設群を統括する専門研修プログラムです。専門研修関連施設をローテートすることにより、各専門医から救急疾患や最先端医療について直接指導を受けることが可能です。

3 募集新規専攻医数

2025年度 放射線科専攻医募集定員：10名程度（2024年4月時点で定員不確定）

直近5年間（2020～2024年度）の放射線科専攻医採用数：22名

<付記事項>

2025年度の放射線科専攻医募集定員は、専門研修施設群の診療実績および専門研修指導医数等の教育資源の規模ならびに地域の診療体制への配慮により、日本医学放射線学会および日本専門医機構が以下のごとく数値上限を設定しています。本プログラムでは、この基準に基づいて募集定員を決定しています。なお、2025年度の熊本大学病院放射線科専門研修プログラムはシーリングの対象となるか2024年4月時点では不明です。

【専攻医受入数の上限】

専門研修施設群全体としての単年度当たりの放射線科専攻医受け入れ総数は、専門研修施設群全体の ①専門研修指導医数、②年間CT検査件数 / 3000、③年間血管造影・IVR件数 / 60、および④年間放射線治療件数 / 60のうち、最も少ない数を上限とします。なお、都市部（東京、神奈川、愛知、大阪、福岡）の都府県に基幹施設がある研修プログラムの場合、原則として、過去の採用実績を基にした専攻医受入数の上限も加わります（過去5年の専攻医採用実績の平均値を超えない）。この上限を超えた場合は、年次で調整します。また、都市部の選択に関しては、地域への派遣実績等も考慮して決定されます。

4 経験目標

モダリティ・手技	目標症例数
X線単純撮影	400例
消化管X線検査	60例
超音波検査	120例
CT	600例
MRI	300例
核医学検査	50例

<補足> 研修が不足する可能性のある超音波検査や消化管造影は、専門研修基幹施設の責任の下に専門研修関連施設での研修で補完します。また、実地診療によって経験目標を達成できない場合は、日本専門医機構が認める講習会（ハンズオン・トレーニング等）及びe-learningの活用等によって、不足する研修を補完します。

治療法	経験症例数	内訳	
IVR	30例	血管系	10例以上
		非血管系	5例以上
放射線治療	30例	脳・頭頸部	4例以上
		胸部・乳腺	4例以上
		腹部・骨盤	4例以上
		骨軟部	4例以上

<補足> 実地診療によって経験目標を達成できない場合は、日本専門医機構が認める講習会（ハンズオン・トレーニング等）の活用等によって、不足する研修を補完します。